

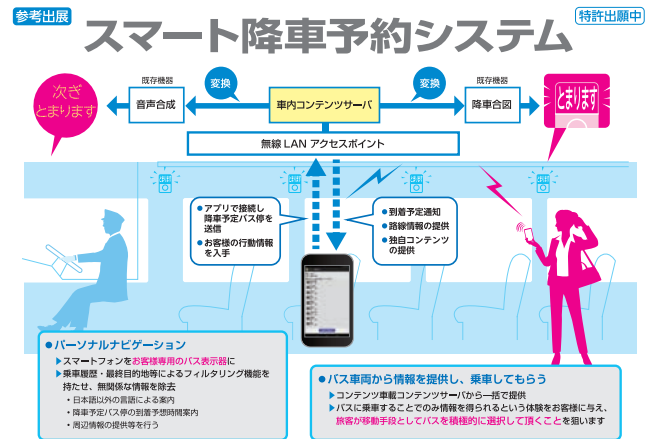
位置情報と無線通信技術の活用：スマート降車予約

鉄道・路線バスなどの公共交通機関は、利便性の向上による旅客の増加や運営の効率化を促す手段として情報通信技術の活用が期待されている。

公共交通を利用する旅客の状況を「乗車前」「乗車中」「乗車後」の3種類に整理すると、各段階で旅客が必要な情報は異なっていることが分かる。都市部のバス事業者を中心に導入されている「バスロケーションシステム」は、バス停などで乗車を待つ旅客に対してバスの現在位置や到着予定を案内するものであり、主に乗車前を対象としている。一方で、乗車中には車内ディスプレイや音声による旅客全員への案内が主流であり、旅客個人への情報伝達は一般的ではない。

当社では、旅客の利便性を向上させるシステムのプロトタイプとして「スマート降車予約システム」の研究開発に取り組んでいる(図1参照)。車内に無線LANを用意し、旅客がスマートフォンやタブレット上のアプリを起動することで、バス固有の情報(系統・行き先・通過予定バス停など)を得ることができる。旅客は降車したいバス停を選択して降車を予約し、システムを通じて旅客への事前通知と降車ボタン押下を代行

する。さらに、国内外の観光客や外国人のように路線バス利用に不慣れな旅客に対する利便性を提供する。本システムが降車予約を基本機能としてさまざまな情報提供を付加することで旅客の利便性を向上させ、旅客数増加に貢献することを期待する。



■ 図1 スマート降車予約システムのコンセプト